

平成30年度 学校経営報告

本校は、確かな学力、専門的な知識、技術力、社会性を身に付けた個性豊かな人材を育成するため、今年度は、募集・広報活動を重点項目に置いて、目的意識の高い入学生を確保するために様々な取り組みを行った。また、ボランティア活動を通して地域に貢献する、社会で役立つ資格を取得させ、自信と学ぶ意欲の向上を重点に教育活動を実施した。

1 今年度の取組状況と自己評価

(1) 学習指導

ア 「ものづくり人材育成プログラム特定分野推進校」として、機械科では、職業能力開発協会から旋盤マイスターの方を招聘し、技能検定や高校生ものづくりコンテストに向けた技術指導を受け、技術の向上を図った。建築科では、元棟梁の一級大工技能士の指導を受け、3年生の課題研究の木造班等で大工技能検定の技術指導を受けるなどして、2級・3級に合格できた。また、2年生では一級建築士を講師に招聘し、建築デザインの講演を行った。1年生では、一級大工マイスターの棟梁に実物大の平屋の軸組を組み立てる実習経験をすることができた。

イ 予習・復習の重要性を理解させるため、1年生を担当する普通教科、工業科の教員が授業の進捗状況や生徒の理解度等を判断して、適宜学習課題を課すことにより家庭学習の定着を図る取り組みを行い、成績向上へ繋げることができた。

ウ 大学進学希望者の学力向上を目指すため、継続した取り組みとして、進路指導部が主体となり組織的な対応で、長期休業日中に数学、理科、英語、国語の集中講座等を24講座実施した。

エ 資格取得では、ジュニアマイスター顕彰、電気工事士、危険物取扱者、工事担任者、消防設備士、製図検定、計算技術検定、初級CAD検定、施工管理技術検定、情報技術検定、大工技能検定、危険物取扱者等の難関資格の取得指導を行い、資格取得者総延べ件数617件となった。また、各種工業系コンクールやものづくり競技大会等に参加して良い成果を残した。

<主な資格名と合格者数、コンクールや大会の成果>

ジュニアマイスター顕彰：38名、第一種電気工事士：11名、第二種電気工事士：46名、建築施工管理技術検定学科合格：10名、2級管工事施工管理技術検定学科合格：8名、大工技能検定2級：1名、3級：24名、危険物取扱者乙種1類～3類：1名、乙種4類：16名、消防設備士乙種：6類：2名、アマチュア無線技士3級：1名、4級：1名、ボイラー技士2級：2名、工事担任者DD3種：1名、工事担任者AI3種：1名、ICTプロフィエンスー検定準2級：6名、3級：28名、4級：53名、ITパスポート：1名、冷凍機械責任者第3種：1名、高所作業車特別教育講習修了：68名、機械製図検定：6名、基礎製図検定：34名、初級CAD検定：8名、計算技術検定2級：1名、3級：163名、情報技術検定2級：2名、3級：79名、その他の資格も複数あるが省略する。

<各種コンクール、競技大会の実績や成果>

- ・U-22プログラミングコンテスト2018全国大会：経済産業省商務情報政策局長賞
- ・高校生プログラミングコンテスト全国大会：5位
- ・若年者ものづくり競技大会メカトロニクス部門：出場
- ・高校生ものづくりコンテスト関東大会電子回路組立部門：5位
- ・高校生ものづくりコンテスト東京都大会電子回路組立部門：7位
- ・高校生パフォーマンスロボット競技大会：4位

- ・東京都工業科生徒研究成果発表大会：東京都教育委員会 努力賞
 - ・東京都建設系高校生作品コンペティション2018：最優秀賞、審査員特別賞、優秀賞
 - ・建築系高校生対象コンペティション：最優秀賞
 - ・高校生建築設計競技：1位、3位、奨励賞
 - ・WRO Japan 2018ミドル競技東京都大会：6位
 - ・本田宗一郎杯ホンダエコマイレージ チャレンジ2018全国大会高校生クラス36位
都立高校出場チームでは、1・2位を独占するなど一番上位の結果を残した。
- オ ICT機器の活用は、社会科、英語科、工業科の授業で積極的に活用することができた。若手教員研究授業（21回）等ではICT機器を使用した授業を8回行った。また、年間授業の半分程度ICT機器を活用した教科もあった。
- カ 国語科や保健体育科、社会科、英語科、工業科目の授業で1分間スピーチや調べ学習、グループワークなど発表する機会を意識的に増やし、活発な授業が行われた結果、生徒のコミュニケーション能力が向上した。また、課題研究では、工業4科がそれぞれ課題研究発表会を実施し、パワーポイントを駆使した発表を行い、プレゼンテーション能力を向上することができた。
- キ 読書活動を通して、読書力、想像力、思考力の向上を図るため、各教科で図書館利用を促進した結果、年間で生徒の来館者延数5,272名、貸出件数1,814冊の実績を残すことができた。
- ク 教科「人間と社会」を1年生で実施、隅田川テラスの清掃、救命講習等の体験活動を通して、人間と社会の関わりに対する基礎的・基本的な知識を身に付けることができた。
- ケ 学力調査及び学力向上推進計画に基づき授業を行い、1・2年生では外部調査会社のテストを導入して、生徒の能力を把握し、調査データを基に各教科で基礎・基本を重視した授業展開をすることができた。
- コ 平成26年度より実施した都立学校学力スタンダードを、本校生徒の実態に即した蔵前工業版学力スタンダードを作成し、年間を通じて計画的に実施することができた。
- サ 学力スタンダード該当科目以外でも、学力スタンダード実施に準じて、各教科の教科主任が中心となって「学力スタンダード指導計画・報告書」、「週ごとの指導計画」等を教科会で検討・調整を図りながら計画的に実施した。

(2) 進路指導

- ア 就職活動及び進学活動を1年生から意欲的に取り組めるようキャリア教育を計画的・段階的に実施した。その結果、就職を希望する生徒105名に対して全員就職が内定した。進学を希望する生徒49名も大学や専門学校等に進学することができた。希望する大学への進学や公務員に再挑戦する生徒3名を除いて、進路決定率を100%達成することができた。
- イ 特別活動やホームルーム活動で挨拶の励行をさせるとともに、生徒会が校門に立って朝の挨拶運動も行うことができた。帰りのホームルームで1分間スピーチを取り入れるクラスもあった。
- ウ 進学指導では、日本工業大学との高大連携教育を推進し、2年生の進学希望者4名に対して、大学研究室インターンシップを体験させた。
- エ 希望者による技能習得型インターンシップを計画した。
- オ インターンシップを学校行事に位置付け、進路指導部が主体となり全教職員が担当して、2学年の生徒全員を3日間インターンシップに参加させた。実施後のアンケートでは、参加生徒、保護者、受け入れ企業共に良い評価を得ることができた。
- カ 進路指導希望調査、就職・進学ガイドゼミナー、職業適性検査、卒業生による進路講演会、全校あげての模擬面接指導、進路が決まった3年生から1・2年生に向けた講話等を段階的、

計画的に実施し、進路実現に向けた進路指導を行うことができた。

(3) 生活指導

ア 本校入学後の学校満足度について、学校評価アンケートの「本校に入学して良かった」の問いに対して「良かった」の答えが、生徒87%、保護者94%になった。

イ 今年度の卒業生157名の中に3ヶ年間皆勤者・精勤者数が44名(28%)となった。全校生徒の皆勤者・精勤者は52%であった。

ウ 全校をあげた身だしなみ指導を行うために生活指導基準を再校し、共通認識するための研修会を実施した。身だしなみ指導について、全校で取り組む指導を年間6回実施した。その結果、頭髮・服装の乱れが減少し、再指導を受ける生徒も減少した。

エ 規範意識向上の取り組みの一環として、始業のチャイムとともに授業を始め、生徒が時間を守る取り組みを行った。また、今年度も継続して学校への帰属意識を高めるために、始業式、終業式の終わりに校歌を全員で斉唱する取り組みを行った。

オ 教職員は、相互に協力しながら体罰防止に努め、生徒には「いじめをしない・させない」指導を繰り返し行ったことで、体罰・いじめを未然に防止することができた。

(4) 特別活動・部活動

ア 生徒会により、ボランティア活動や文化祭で環境保全や省エネ化の取り組みを行い、安全や資源保全の関心・意識の向上を図った。

イ 部活動加入率を80%以上に目標を設定した。年度当初は80%を超える加入率で、最終的には73%の結果となった。さらに、野球部やサッカー部、テニス部、バレーボール部などの運動系クラブは、朝練習を行うなど活動が活発になった。

ウ 交通安全ボランティアに140名の生徒が参加し、痴漢撲滅キャンペーン、合同水難救助訓練、地域の浅草橋マロニエ祭り、保育園運動会の手伝い、空飛ぶ車椅子活動の車いす修理等述べ33名の生徒がボランティアに参加した。ボランティア活動に参加した生徒延数は173名になった。

エ 「パワーアップハイスクール」として、今年度の体力テストの結果は、昨年度より小幅ながら上回ることができた。昨年度の結果に基づき、体育の授業内で全学年に筋力トレーニングや持久走を実施し、体力向上に努めた結果、体育の授業や部活動、学校行事等を通して気力・体力を鍛錬することができた。

オ 国際理解教育の一環として、台湾へ3泊4日の海外修学旅行を実施した。異文化理解及び語学力、コミュニケーション能力の向上を図ることができ、本校の目指す国際工業人の育成に寄与することができた。さらに、中国の教育関係視察団の訪問を受け入れ、国際交流を図った。

カ 「オリンピック・パラリンピック教育」の推進に向けて、ボッチャの日本代表アスリートを講師に招き、全校生徒を対象に講演会を実施・体験し、意欲の向上を図った。

(5) 健康づくり

ア セーフティ教室では、薬物乱用防止講演会、SNSの危険性と安全な関わり方、困った時の対応方法等について外部専門講師から講話をいただき自他の生命を大切にすることを養うことができた。

イ 健康的な生活習慣を確立させるため、学校保健委員会では、「私たちと手洗い」についての調査をし、文化祭で発表を行った。また、12月に行った学校保健委員会において、学校医や保護者の前で発表し内科医からお褒めの言葉をいただいた。

ウ 防災訓練を年間4回実施し、そのうち1回は、2年生全員を対象に宿泊防災訓練を2学期に実施した。宿泊防災訓練では、地域と連携した防災教育を2年生全員が事前に設定した、6種

類の体験ブースをローテーションしながら体験した。講演では、直下型地震から生き延びるための手立て等を学習することができ、生徒の自助・共助の精神を育むことができた。

エ 1年生全員とスクールカウンセラーとの面談を、1年生5～6人程度の小グループに分け、1学期間かけて計画的に実施することができた。

オ ユースソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援委員会として計画的に情報交換会や校内研修会を実施した。

(6) 募集・広報活動

ア 募集活動のために、ポスターを初めて作成し、学校案内、説明会案内等の資料とともに都庁交換便で中学校に送付した。また、近隣の中学校には教員が持参して本校の説明をしながら募集活動を行った。さらに、HPのバージョンアップや更新回数を昨年度の2倍以上と大幅に増やした。

イ 全教員による中学校訪問を初めて実施し、延べ108校訪問するなど広報活動の充実を図った。

ウ 校外における区・市単位の合同学校説明会、中学校での説明会、上級学校訪問等、依頼を受けたものについて全てに対応した結果、合同説明会6ヶ所参加、中学校への説明訪問5校、上級学校訪問受け入れ38校119名の成果を得た。

エ 校内ガイドツアー、本校での学校説明会、一日体験入学等を実施した結果、目標の1,800名には及ばなかったが1,320名の参加者を得ることができた。本校の教育活動の特色、成果、実績を中学生や保護者に周知することができた。

オ 母校訪問（出身中学訪問）を1年生の希望者を集め、134名が参加して実施することができた。

カ 様々な募集活動を組織的に展開したが、入学選抜試験の推薦応募倍率が1.45倍、一般選抜倍率では0.75倍となった。目標を下回るとともに、3次募集まで実施することになった。

キ 台東区立浅草中学校との連携型中高一貫教育を継続して実施した結果、今年の入学選抜推薦試験の特別推薦から2名受検し、一般受検でも1名受験した。このことは、浅草中学校との連携型中高一貫教育の成果であり、引き続き本校と浅草中学校との連携を充実させていく必要がある。

(7) 学校経営・組織体制

ア 「生徒による授業評価」を2学期と3学期の2回実施した。校内研修を集計結果を基に2回実施した。生徒の意見を前向きにとらえて授業改善に取り組む教員の姿勢が見られるようになった。

イ 主幹教諭・主任教諭に、分掌主任や各種委員会の委員長、各教科での教科主任に充て、主幹教諭、主任教諭が主体的に運営できるようにした。その結果、各分掌が組織的に機能している。教科会では教科主任が中心となり毎週定期的に教科会を行う教科が増えた。

ウ 前年度引き継いだ厳しい自律経営推進予算の執行を、経営企画室長を中心に経営企画室職員と教員が連携し、センター契約の効率化を図りながら節約を心掛け執行を計画的に行うことができた。補正予算は、編成作業を早めに計画し無理・無駄のない編成を行うことができた。

エ 大学推薦に必要な普通教科の調査結果から、「数学」及び「理科」の選択科目の新設等について教育課程委員会で検討を行ったが、今年度も教育課程の変更をしないこととした。次年度も、引き続き検討していく。

オ 個別指導計画に基づき、特別支援教育コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーと生活指導部、学年担任等が連携し、特別支援教育並びに生徒の心

のケア充実に取り組んだ。今年度も継続して、女子生徒への支援やケアを重点的に行った。

カ 個人情報保護・管理等に関する研修会を7月と12月に2回実施し、教職員の個人情報管理への意識向上を図った。

2 次年度以降の課題と対応

(1) キャリア教育の充実について

平成26年度まで、本校のインターンシップは2年生の夏休みを利用して、希望者(約30名)に対して各工業科単位で実施していた。平成27年度から、「全都の工業高校のパイロット校としての役割を担う学校」としてキャリア教育を一層充実させるために、2年生全員に11月の三日間インターンシップを体験させた。進路指導部が主体となり、計画・準備を進め全教職員で分担した企業の訪問、生徒の引率等を行った。実施後の生徒アンケート結果やPTAの方々の会合での保護者の意見から「行ってよかった。」「仕事を具体的にイメージすることができた。」など良い反応が多く得られた。

課題として、インターンシップ全員参加を継続する体制を更に整えるとともに、実施時期等の検討や受け入れ企業を確保するための企業開拓を継続的に行っていく必要がある。

(2) 生徒募集対策について

今年度も、広報活動の充実を図るとともに、全教員による中学校訪問を掲げ積極的に行い、目的意識の高い入学生の確保に向けて、総務部を中心に教職員が一丸となって取り組んだ。また、学校説明会において、生徒による各科の紹介や前PTA会長による学校紹介等も行った。さらに、今年度は、HPのバージョンアップや更新回数を昨年度の2倍以上と大幅に増やした。また、開校以来となる、制服のブラッシュアップを検討し、次年度から変更を決定した。その結果、前年度より中学生の参加数は減少したが、アンケートの結果からは良い感触があった。そして、台東区立浅草中学校との連携型中高一貫教育により、本校の良さを伝えることができ、浅草中学校から推薦及び一般で継続して受験者を得ることができた。

課題としては、昨年度以上に広報活動の充実を努めたにも関わらず、2次募集・3次募集を実施することになったが希望者が集まらず、機械科で14名、設備工業科で7名、合計21名の定員不足を招いた。また、本校は工業高校の中で、歴史と伝統を有し入学難度の高い工業高校として中学校の教員や保護者、地域から評価されている。ありがたい反面、学力の高い中学生は普通科を受験し、勉強が苦手な中学生は本校を敬遠するといった構図が毎年続いているため、応募倍率が向上しない。したがって、次年度も応募倍率向上等のために、募集活動を重視した取り組みを組織的にかつ積極的に行う必要がある。

(3) パワーアップハイスクールの取り組みについて

今年度から、東京都教育委員会から「パワーアップハイスクール」の指定を受けた。体育科教員及び部活動顧問が主体となって、本校生徒の気力体力向上の指導にあたった。運動部の活動成果として、朝練習を行うクラブや実働部員が増加したが、競技大会等での戦績は、昨年度並みで、工業高校大会で一部の競技種目で優勝、準優勝する部活動もあったが、都大会等大きな大会では、昨年を上回る結果を残せなかった。

課題として、本校は、工業高校なので工業系資格取得のために、各工業科で関係する資格取得指導を朝学習や放課後に行っている。そのため、資格取得試験時期が重なるころは、生徒は資格取得補習に参加するため、部活動に全員が揃って練習する機会を設定するのができにくい現状がある。しかし、これまでの「部活動推進指定校」の指定を受けて取り組んだ経験を活かして、1年間かけて計画的に気力・体力の向上を図るとともに、保健体育科、運動部部活動顧問、工業科

が三位一体となって組織的に取り組む必要がある。さらに、次年度も、「パワーアップハイスクール」の指定継続予定のため、体育授業の指導内容・方法の工夫・見直しや基本的な生活習慣の定着に向けた取り組みを行うとともに、学校全体として生徒の体力を向上させ、活気ある学校生活の実現を図る。

(4) 工業科教員のスキルアップについて

本校の工業科教員は、これまで経験豊富な教員が多く在職していた。そのため、実習作業における技術・技能の指導や安全教育が円滑に行われていた。しかし、今年度も異動者が多くいる中で、新規採用教員が増えている。若手教員の多くは優秀で、専門知識も豊富で意欲的な教員が多い。しかし、実技や技能を伴う指導にあたっては、実践的な経験を積み重ねる必要がある。日本の産業界を背負って立つ人材育成を重要課題として受け止め、今後、例えば旋盤作業技能検定3級試験の指導者の育成や大工技能検定2級合格のための指導者のスキルアップ等を進め、教職員一人一人の資質・能力が発揮できるよう教育環境の整備を図る必要がある。

また、平成28年度は、全国工業高等学校長協会から、「評価手法実践研究指定校」の指定を受け、「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の調査研究」を行った。平成29年度は、文部科学省の「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）」の指定に向けて、将来構想委員会を設置し、計画書の作成・関係機関との連携に取り組んだ。今年度は、評価手法の共通認識を図るとともに、更なる教育内容の充実に努めた。さらに、次年度も、学習指導要領改訂に伴う教育課程の検討も含め、更なる学校経営の充実に努めていく。